

## 令和6年能登半島地震による海岸隆起後の植物相モニタリング

豊田賢治<sup>1-4</sup>・有村拓真<sup>1</sup>・角田啓斗<sup>2,5,6</sup>・友井拓実<sup>7\*</sup>

<sup>1</sup> 広島大学生物生産学部、広島県東広島市鏡山 1-4-4 (〒739-8528)

<sup>2</sup> 広島大学大学院統合生命科学研究科、広島県東広島市鏡山 1-4-4 (〒739-8528)

<sup>3</sup> 東京理科大学先進工学部生命システム工学科、東京都葛飾区新宿 6-3-1 (〒125-8585)

<sup>4</sup> 神奈川大学理学部理学科、神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 (〒221-8686)

<sup>5</sup> 金沢大学大学院自然科学研究科、石川県金沢市角間町 (〒920-1164)

<sup>6</sup> 金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設、石川県鳳珠郡能登町小木ム 4-1 (〒927-0553)

<sup>7</sup> 埼玉大学大学院理工学研究科、埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 (〒338-8570)

\*責任著者

### Monitoring coastal flora following uplift caused by the 2024 Noto Peninsula earthquake

Kenji TOYOTA<sup>1-4</sup>, Takuma ARIMURA<sup>1</sup>, Keito TSUNODA<sup>2,5,6</sup> and Takumi TOMOI<sup>7\*</sup>

<sup>1</sup>School of Applied Biological Science, Hiroshima University, 1-4-4, Kagamiyama, Higashihiroshima, Hiroshima, 739-8528

<sup>2</sup>Department of Bioresource Science, Graduate School of Integrated Sciences for Life, Hiroshima University, 1-4-4 Kagamiyama, Higashihiroshima, Hiroshima 739-8528

<sup>3</sup>Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, 6-3-1, Nijyuku, Katsushika, Tokyo, 125-8585

<sup>4</sup>Department of Biological Sciences, Faculty of Science, Kanagawa University, 3-27-1, Rokkakubashi, Kanagawa, Yokohama, Kanagawa, 221-8686

<sup>5</sup>Graduate School of Natural Science & Technology, Kanazawa University, Kakuma, Kanazawa, Ishikawa 920-1192

<sup>6</sup>Noto Marine Laboratory, Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, Ogi 4-1, Noto, Hosu, Ishikawa 927-0553

<sup>7</sup>Graduate School of Science and Engineering, Saitama University, 255 Okubo, Sakura, Saitama, Saitama 338-8570

\*Corresponding author

### Abstract

The 2024 Noto Peninsula earthquake caused extensive coastal uplift along the Sea of Japan, converting former subtidal zones into newly emerged terrestrial habitats. This study documents early post-earthquake vegetation development on an uplifted coast in the Monzen area of Wajima City, central Japan, based on floristic surveys

conducted in December 2024 and June and August 2025. The study area was subdivided into five habitat types, including inland sandy areas, zones around wave-dissipating blocks, the newly formed shoreline, uplifted rocky reefs, and areas landward of coastal embankments. Plant species richness and community composition differed markedly among these habitats, reflecting contrasts in substrate stability, moisture availability, and microtopography. Temporarily formed freshwater flow paths played a key role in facilitating the short-term establishment of non-coastal plants, although many of these species declined following flow cessation. In contrast, annual plants relying primarily on seed-based colonization were able to expand rapidly into newly available habitats, while perennial coastal plants showed slower establishment and limited growth. Uplifted rocky reefs supported particularly high species richness, forming mosaics of sandy, disturbed, and stabilized substrates. These results highlight the importance of fine-scale habitat heterogeneity and hydrological dynamics in shaping early successional trajectories following sudden coastal uplift and underscore the value of continued long-term monitoring of post-seismic coastal ecosystems.

## はじめに

2024 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震に伴う大規模な地殻変動により、輪島市を中心とした能登半島外浦地域の広い範囲で顕著な海岸隆起が生じた(国土地理院 2024; Goto et al., 2026)。この隆起により、輪島市門前に位置する鹿磯海岸などでは、従来は砂浜海岸の潮下帯に設置されていた消波ブロックが完全に陸地化し、新たな砂浜が形成されたことが報告されている(Goto et al., 2026)。こうした隆起海岸を対象として、2024 年 6 月以降、複数の研究グループにより輪島市門前町黒島町の黒島漁港周辺や鹿磯海岸周辺において、震災前には潮下帯であったが震災後に陸地化した区域の植物相調査が実施されてきた。これまでに、黒島漁港周辺の隆起によって生じた砂浜や岩場では、ヨシヤススキ、ケイヌビエ、アレチギンギシなど 19 種類以上が繁茂していることが報道されている(井上, 2024; 土井, 2025)。さらに、同年 9-10 月に行なわれた調査では、黒島漁港内から 42 種の植物が採集されたことが報告されており、地盤隆起によって新たに形成された陸域へ、海浜植物のみならず陸生植物も急速に進出しつつある実態が明らかとなっている(小倉ら, 2025)。一方で、これらの先行調査の多くは種リストの把握に重点が置かれており、隆起直後からの時間経過に伴う植生構造や被度の変化、ならびに微地形との対応関係については十分に検討されていない。特に、消波ブロック周辺や新たに形成された砂浜における植生の空間的異質性は、地震に伴う急激な環境変化後の初期遷移過程を理解する上で重要な知見を提供する可能性がある。そこで本研究では、輪島市門前の鹿磯海岸を対象として、隆起海岸における植生群集の組成および分布特性を詳細に調査し、震災後に形成された新規陸域における植物群集の成立過程を明らかにすることを目的とした。

## 材料と方法

2024 年 12 月 17 日と 2025 年 6 月 26 日、そして同年 8 月 22 日の 3 回に渡り石川県輪島市門前町鹿磯にある鹿磯海岸(37°17'34.0"N 136°43'52.5"E)において植物相調査を実施した。鹿磯地区にある長谷の潤隧道直前の隆起海岸(図 1)を調査地として、陸側の砂地(隆起前は波打ち際を含む砂浜;図 1a)、消波ブロック

周辺(隆起前は潮下帯、現在は陸地化;図 1b)、波打ち際(隆起前は潮下帯、現在は新しい砂浜;図 1c)、隆起岩礁(隆起前は潮下帯、現在は陸地化;図 1d)、堤防内(隆起前は潮下帯、現在は陸地化;図 1e)の 5 地点に区分けした(図 1 上段)。2024 年 12 月 17 日は予備調査のため、これら 5 地点を区別せずに調査を行なった。調査は地点区画内を隈無く歩き、繁茂している全ての植物について目視による形態観察(植物体

全体だけでなく、葉、花、茎などの詳細な観察)とデジタルカメラによる画像データの精査から種同定を行なった。本調査では植物種ごとの株数は記録せず、区画内に何種類の植生が見られるか定性的なデータ取得を実施した。また、同定した植物種の生息環境を海岸、川岸・河畔、道端、荒地、湿地、林縁、山野の7つのカテゴリーに分類した(門田 2013; 三河の植物観察 2025)。

### 結果と考察

2024年12月と2025年6、8月に実施した3回の植物相調査の結果、鹿磯海岸において、陸側砂地では28種、消波ブロック周辺では15種、波打ち際では7種、隆起岩礁では44種、堤防内では28種の植物が確認された(表1)。震災後の鹿磯海岸は、砂地を主体とする区画(図 1a-c)と隆起した岩礁を主体とする区画(図 1d)に大きく二分され、それぞれで異なる植物相が形成されていた。2024年12月は5地点に分けず全体で27種を確認した。3回の調査で計74種の植物を確認した(表1)。

陸側の砂地(図 1a)では、前浜から後背砂丘の移行帯に生育する海浜植物に加え、道端や荒地に生育する一年草(例:オオオナモミ、メヒシバなど)や、主に山

野で見られるノブドウも記録された。2025年6月26日時点では、陸側砂地の背後(道路側)に沿って浜湧水を起源とする一時的な淡水流路が形成され、海へと注いでいた。Google マップを参照すると(2025年12月26日時点)、形状や規模、位置は異なるものの、過去にも浜湧水の存在が確認されており、2025年は比較的規模の大きな淡水流路が形成された年であったと考えられる。この淡水流路は、震災直後の地殻変動に伴って発達した可能性がある一方、同年8月22日時点では完全に干上がり消失していた。淡水流路の存在期間中には、山野で見られるノブドウに加え、川岸で見られるオニグルミやアメリカセンダングサなどの侵入が確認されたが、流路消失後にはこれらの多くが枯死または個体数の著しい減少を示した。この傾向は、砂浜では一般的でないギシギシやナガバギシギシにも共通しており、8月22日時点では消波ブロック周辺に分布していたギシギシは枯死寸前の状態であった。一方で、メヒシバやヨモギなどは8月22日時点でも生残しており、特にメヒシバは消波ブロック周辺(図 1b)にも分布を拡大していた。これらの種は高温や乾燥への耐性が比較的高く、一時的な淡水環境の消失後も定着可能であったと考えられる。

メマツヨイグサやオオマツヨイグサ、オオオナモミは海浜植物ではないものの、後背砂丘やその周辺の道

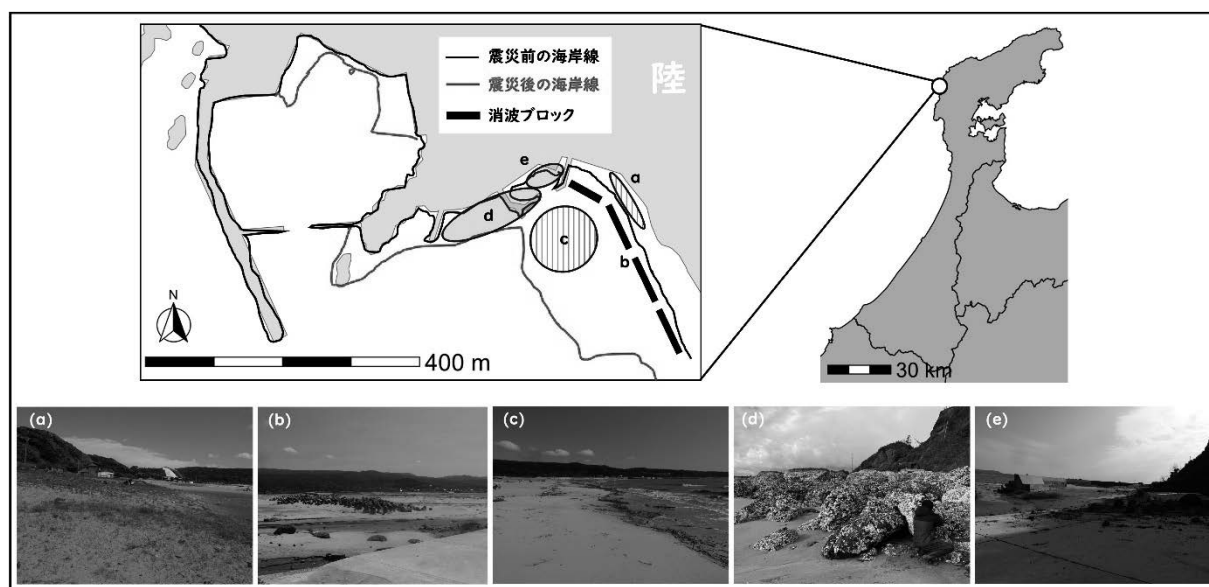


図 1. 鹿磯海岸の採集地点(上段)。陸側の砂地(隆起前は波打ち際を含む砂浜;a)、消波ブロック周辺(隆起前は潮下帯、現在は陸地化;b)、波打ち際(隆起前は潮下帯、現在は新しい砂浜;c)、隆起岩礁(隆起前は潮下帯、現在は陸地化;d)、堤防内(隆起前は潮下帯、現在は陸地化;e)の5地点に区分けした。

端に広く分布する種であり、震災前から生育していた可能性が高い。特にオオオナモミは個体数が多く、消波ブロック周辺や波打ち際にも進出しており、夏季の高温や乾燥の影響を比較的受けていない様子が観察された。海浜植物の中で顕著に生息域を拡大していたのは、海浜における侵略的外来種であるオニハマダイコンであった(環境省, 2013)。本種は北アメリカ東岸からヨーロッパを原産とするアブラナ科の一年生または二年生草本であり、石川県内の主に外浦地区を対象にした広域の分布調査も行われている(脇ら, 2022)。オニハマダイコンはオオオナモミとともに、2024年12月17日時点で種子散布を終え、枯死したとみられる個体が記録されている(図2)。これらのように、種子散布による世代更新を主な繁殖戦略とする植物が、震災後の初期段階において、陸側砂地から消波ブロック周辺へと最初に進出したと考えられる。これに対し、コウボウシバ、コウボウムギ、ハマニガナ、ハマゴウ、ハマヒルガオなどの在来海浜植物も、陸側砂地から消波ブロック周辺、さらに波打ち際(図1)へと分布を拡大していた。しかし、これらの個体はいずれも小型であり、地下茎または匍匐茎による連続的な分布拡大は確認されなかった。離れた地点に点在して出現していたことから、主に種子散布によって新たに定着した個体であると考えられる。いずれの種も多年草であるため、一年草であるオニハマダイコンと比較すると、定着および生育にはより長い時間を要してい

る可能性が高い。そのほかの海浜植物として、スナビキソウやハマボウフウ、ハマニンニクなどが確認されたが、今後さらに生育域を拡大するかどうかは不明である。特に、ハマボウフウは、2024年12月および2025年6月の調査において、陸側砂地(図1a)のみで確認された。本海岸では震災前の2023年6月にハマボウフウの群落が確認されていたことから(角田ら, 2026)、今後、より汀線に近い砂浜へ再び分布を移行できるかどうかを継続的に注視する必要がある。一部の植物個体(例:コウボウムギ、スベリヒユ、メヒシバなど)は、消失した淡水流路の跡に沿って生息域を拡大していた。このことから、淡水流路の有無だけでなく、その形成時期や存続期間の違いが、移入・定着する植物種の個体数および種多様性に影響を及ぼす可能性が示唆される。

隆起岩礁(図1)では、海側から順に、岩礁の隙間に形成された砂地、岩礁およびその隙間に堆積した土壌、湧水湿地および湧水池、そして震災前から存在していた後背砂丘が連続して分布していた。岩礁の隙間に新たに形成された砂地では、海浜植物としてハマゼリとハマオトコヨモギのみが確認された。一方、ハマダイコン、ハマボス、ハマヤブマオなどの他の海浜植物は、後背砂丘に相当する位置でのみ記録された。これらの種は比較的土壌が安定した環境を好むため、震災による攪乱のタイミングで前方の砂地へ移入できず、湧水湿地や湧水池が分布拡大の障壁と

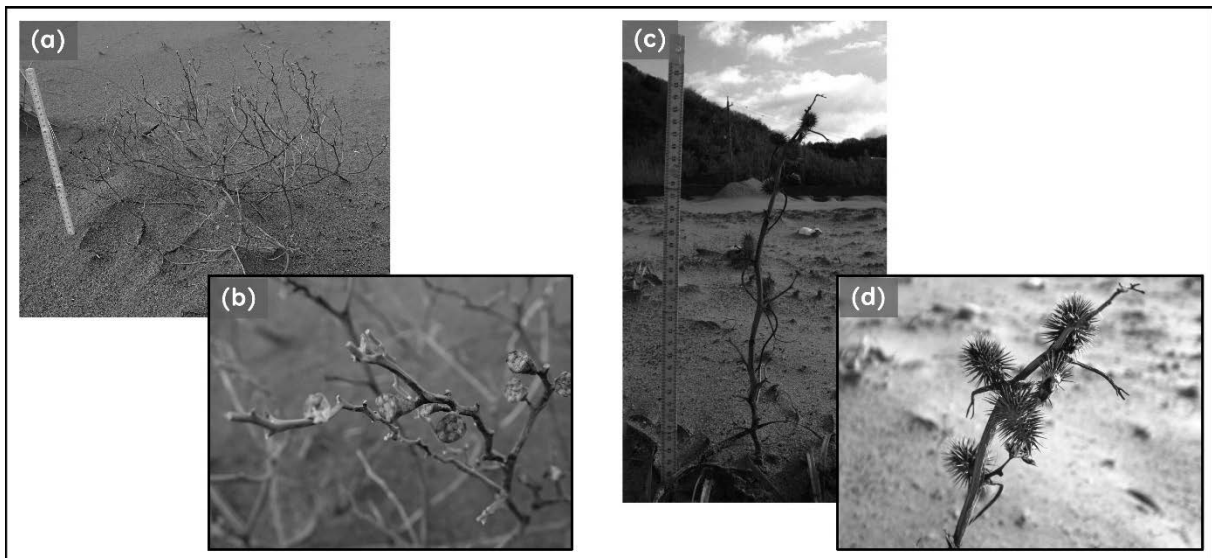


図2. 2024年12月17日の枯死したオニハマダイコン *Cakile edentula* の全体(a)と種子散布後の果実部(b)とオオオナモミ *Xanthium occidentale* の全体(c)と種子散布後の果実部(d)。

して機能した可能性がある。岩礁およびその隙間に堆積した土壌では、アキノノゲシ、オオアレチノギク、オニノゲシ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、ヨモギなどのキク科植物や、アレチギシギシ、ギシギシ、ナガバギシギシといったタデ科ギシギシ属の植物が優占しており、道端や荒地に典型的な植生が形成されていた。岩礁地帯の地表付近では日陰が生じやすく、これが高温や乾燥によるストレスを緩和し、これらの植物の生育を可能にしていたと考えられる。岩礁地帯から湧水湿地、湧水池にかけては、アリタソウ、アメリカセンダングサ、ケイヌビエ、ミチヤナギ、マルバツユクサなど、水田や溝沿いを想起させる植生が認められた。さらに後背砂丘にかけては、前述の海浜植物やオオマツヨイグサなどが出現していた。総じて隆起岩礁は、砂地と荒地、後背砂丘の要素がモザイク状に組み合わせ、植物種に富む環境を形成していると考えられる。

堤防内(図 1e)は、隆起岩礁背後の後背砂丘の延長部にあたり、砂地および草地に加え、6月26日時点では淡水流路の一部を含んでいた。後背砂丘から砂地と草地にかけては、スナビキソウ、ハマエンドウ、ハマボスなどの海浜植物に加え、しばしば海岸で観察されるミヤコグサが確認された。淡水流路内にはオオカワヂシャ、タカサブロウやミチヤナギなどが生育していたが、8月22日時点では流路の消失に伴い、これらの植物はすべて枯死または枯死寸前の状態となっていた。

本報告では3回の調査結果に基づいて植物相を記載したものであり、同定が未確定な植物種や、他季節にのみ出現する植物種が含まれていない可能性がある。今後も継続的に植物相の変遷を記録していくことで、震災後の地殻変動が沿岸植生に与える影響をより精緻に特徴づけることが可能になると考えられる。

### 謝辞

本研究は黒潮生物研究所研究助成(代表:角田)と公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金(代表:豊田賢治)、タカラ・ハーモニストファンド助成事業(代表:豊田賢治)、そして科学技術振興機構(JST CREST

JPMJCR2121, JST ERATO JPMJER2403;代表:豊田正嗣)の支援を受けて行われました。

### 引用文献

- 土井良典, 2025. 能登地震で地盤隆起した海岸や港内が緑地化なぜ? カボチャも実る. <https://www.asahi.com/articles/AST2415JTT24PJLB001M.html>. (2025年12月25日参照)
- GOTO, H., YAMANAKA, T., MAKITA, T., IWASA, Y., OGURA, T., KAGOHARA, K., KUMAHARA, Y., SUZUKI, Y., MATTA, N., AOKI, T., MORI, W., HARANISHI, K., NAKATA, T., 2026. Coast uplifted by nearby shore-parallel active submarine faults during the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula earthquake. *Geomorphology*, 493:110069.
- 井上靖史, 2024. 【石川】隆起海岸に植物の息吹 黒島漁港 土壌、種子ゼロから「1次遷移」か. <https://www.chunichi.co.jp/article/925047>. (2025年12月25日参照)
- 門田裕一(2013)野に咲く花 増補改訂新版(山溪ハンディ図鑑). 山と溪谷社.
- 環境省, 2013. 侵略的外来種リスト. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairalist/bylist3/mat09.pdf>. (2025年12月27日参照)
- 国土地理院, 2024. 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動(第5報). <https://www.gsi.go.jp/kikakuchousei/kikakuchousei40182.html>. (2025年12月25日参照)
- 三河の植物観察(2025). <https://mikawanoyasou.org> (2025年12月27日参照)
- 小倉 晃・江崎功二郎・八神徳彦・高木政喜・勝見尚也, 2025. 令和6年能登半島地震により隆起した黒島漁港に出現した陸上植物および鹿磯海岸の塩分濃度. 石川県林試研報, 56: 52-55.
- 角田啓斗・谷内口孝治・豊田賢治, 2026. 北陸地方沿岸におけるハマボウフウ *Glehnia littoralis* の分布状況. のと海洋ふれあいセンター研究報告, in press.

脇 慎之介・高木政喜・寺島拓哉・堀口和真・北村俊  
平, 2022. 石川県の海浜における外来植物アブラ  
ナ科オニハマダイコンの分布と在来植生との関係.  
石川県立自然史資料館研究報告, **10**: 9-20.

Table 1. 鹿磯海岸で観察された植物一覧

和名	学名	科	属	生息環境				2024年		陸崩		消滅ゾロツク間		波打ち際		隆起岩礁		堤防内	
				海	川岸・	道	荒	温	林	山	年	6月	8月	6月	8月	6月	8月	6月	8月
アオカモジグサ	<i>Elymus ciliaris</i>	イネ科	エゾムギ属																
アオツツラフジ	<i>Cocculus thibicus</i>	ツツラフジ科	アオツツラフジ属			○	○												
アキカラムツ	<i>Thelectrum minus subsp. thunbergii</i>	キンボウグサ科	カラムツノ属																
アキノエノコクサ	<i>Setaria faberii</i>	イネ科	エノコクサ属			○													
アキノノギシ	<i>Lactuca indica</i>	キク科	アキノノギシ属			○													
アメリカカイヌホトスギ	<i>Solanum emiliense</i>	ナス科	ナス属			○													
アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	キク科	センダングサ属			○	○												
アリタソウ	<i>Disphania ambrosioides</i>	ヒコ科	アリタソウ属			○	○												
アレキキシギシ	<i>Rumex crispus</i>	タデ科	キキシギシ属			○	○												
イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	タデ科	イタドリ属					○											
イヌタデ	<i>Pennisetum longisetum</i>	タデ科	イヌタデ属			○	○												
エノコクサ	<i>Setaria viridis</i>	イネ科	エノコクサ属			○	○												
オオアレチノギク	<i>Erigeron sumatrensis</i>	キク科	ムカシヨモギ属			○	○												
オオアレチノギク	<i>Persicaria latifolia</i>	タデ科	イヌタデ属			○	○												
オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	キク科	オオオナモミ属			○	○												
オオカワヂシヤ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	オオバコ科	クワガタノ属			○													
オオケンケイキク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	キク科	ハルシヤキ属			○													
オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	オオバコ科	オオバコ属			○	○												
オオマツヨイグサ	<i>Cenothera glazioviana</i>	アカハバ科	マツヨイグサ属			○	○												
オニウシノケグサ	<i>Lolium arundinaceum</i>	イネ科	ウシノケグサ属			○	○												
オニグルミ	<i>Juglans manshurica var. sachalinensis</i>	クルミ科	クルミ属			○	○												
オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i>	イネ科	シバ属			○													
オニシバ	<i>Sonchus asper</i>	キク科	ノギシ属			○													
オニハマダイコン	<i>Cardi edentula</i>	アブラナ科	オニハマダイコン属			○													
オニキアソクソウ	<i>Cyrtium falcatum</i>	オシロイ科	ヤブオシロイ属			○													
カラスゲンソウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	ミカン科	サンショウ属			○	○												
カワラアカザ(ホソバアカザ)	<i>Chenopodium sp.</i>	ヒユ科	アカザ属			○	○												
ギョウギシバ	<i>Rumex japonicus</i>	タデ科	ギョウギシバ属			○	○												
ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i>	イネ科	ギョウギシバ属			○	○												
クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	イネ科	クサヨシ属			○	○												
ケイヌヒエ	<i>Echinochloa crus-galli var. echinata</i>	イネ科	ヒエ属			○	○												
コウホクソウ	<i>Carex pumila</i>	カヤツリグサ科	スゲ属			○													
コウホクソウ	<i>Carex kobomugi</i>	カヤツリグサ科	スゲ属			○													
シロザ	<i>Chenopodium album</i>	ヒユ科	アカザ属			○	○												

Table 1. 鹿磯海岸で観察された植物一覧 (続き)

和名	学名	科	属	生息環境						2024年		陸側		消波ブロック間		波打ち際		隆起岩盤		堤防内	
				海	川岸*	道	荒	温	林	山	6月	8月	6月	8月	6月	8月	6月	8月	6月	8月	
スナヒキソウ	<i>Heliotrop japonicum</i>	ムラサキ科	スナヒキソウ属	○																	
スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	スベリヒユ科	スベリヒユ属		○																
セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	キク科	アキノキリンソウ属			○															
タカサブロウ	<i>Eclipta thermalis</i>	キク科	タカサブロウ属				○														
タガリソウ	<i>Ranunculus sceleratus</i>	キンポウゲ科	キンポウゲ属		○																
ツルヨシ	<i>Phragmites japonicus</i>	イネ科	ヨシ属					○													
ナガハギソウ	<i>Rumex crispus</i>	タデ科	ギンギン属				○														
ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>	イネ科	ギビ属					○													
ノグシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	キク科	ノグシ属																		
ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa var. heterophylla</i>	ブドウ科	ノブドウ属																		
ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	アカイナ科	マツヨイグサ属																		
ハクチョウソウ	<i>Oenothera lindheimeri</i>	アカイナ科	マツヨイグサ属																		
ハチジョウウナ	<i>Sonchus brachyotus</i>	キク科	ノグシ属																		
ハマエンドウ	<i>Lathyrus japonicus</i>	マメ科	レンリソウ属																		
ハマカタコヨモギ	<i>Artemisia japonica subsp. littoralis</i>	キク科	ヨモギ属																		
ハマコウ	<i>Vitex rotundifolia</i>	シソ科	ハマゴウ属																		
ハマゼリ	<i>Oridium japonicum</i>	ゼリ科	ハマゼリ属																		
ハマダイコン	<i>Raphanus sativus var. raphanistrictus</i>	アブラナ科	ダイコン属																		
ハマニガナ	<i>Keris repens</i>	キク科	ニガナ属																		
ハマニンニク	<i>Leymus mollis</i>	イネ科	エゾムギ属																		
ハマヒルガオ	<i>Calystegia soldanella</i>	ヒルガオ科	ヒルガオ属																		
ハマボウフウ	<i>Glehnia littoralis</i>	セリ科	ハマボウフウ属																		
ハマボウソウ	<i>Lysimachia mauritiana</i>	サクラソウ科	オカトラノオ属																		
ハマキアマオ	<i>Boehmeria arenicola</i>	イラクサ科	カラムシ属																		
ハルタデ	<i>Persicaria extremiorientalis</i>	タデ科	イヌタデ属																		
ヒユガエリ	<i>Polygonum fugax</i>	イネ科	ヒユガエリ属																		
ヒメタノコソウ	<i>Achyranthes bidentata var. fauriei</i>	ヒユ科	イノソク属																		
ヒメムカシヨモギ	<i>Eriogon canadensis</i>	キク科	ムカシヨモギ属																		
ホソバアザキノノグシ	<i>Lactuca indica forma indivisa</i>	キク科	アキノノグシ属																		
ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria sentifosa</i>	タデ科	イヌタデ属																		
マルバアザキグミ	<i>Eleagnus umbellata var. rotundifolia</i>	グミ科	グミ属																		
マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>	ツユクサ科	ツユクサ属																		
ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>	タデ科	ミチヤナギ属																		
ミツバ	<i>Cryptantha japonica</i>	セリ科	ミツバ属																		
ミヤコグサ	<i>Lotus japonicus</i>	マメ科	ミヤコグサ属																		
メノモンネングサ	<i>Sedum japonicum subsp. japonicum var. japonicum</i>	ペンケイソウ科	マンネングサ属																		
メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	イネ科	メヒシバ属																		
ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	アカイナ科	マツヨイグサ属																		
ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	イネ科	ヨシ属																		
ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	キク科	ヨモギ属																		

\*マスの薄灰色が12月17日、濃灰色が6月26日、黒色が8月22日に観察された植物種を示す。